

学校法人立命館
立命館大学 総合心理学部 教員募集要項

立命館大学総合心理学部長 矢藤 優子

立命館大学総合心理学部では、この度、下記の通り教員を募集します。適任者のご推薦、またはご応募を頂きますようお願い致します。立命館大学総合心理学部は、女性活躍推進法の趣旨に則り、女性の積極的な応募を歓迎します。

募集分野	英語教育、あるいは英語学・応用言語学・応用学習心理学などのうち英語教育に関連する分野
募集職種	任期の定めのない専任教員（教授または准教授）
職務内容・担当科目	以下の科目の担当および学部および大学全般の教育・研究・広報・社会貢献に関わる活動、高等学校との連携等に関する活動、大学院における研究指導等に従事する 担当科目： 「英語 P1～P4」、「英語 S1～S4」、および「専門英語（心理学）Ⅰ・Ⅱ」などの英語教育に関する科目（以上、学部） ※英語科目の一部には、外部教育機関や講師等のコーディネート業務も含まれます
募集人数	1名
求める教員像	立命館憲章、建学の精神、教学理念および総合心理学部・人間科学研究科の教育研究上の目的等を理解し、高等教育・研究に携わる者としての社会的責務を自覚し、法令遵守はもとより、基本的人権を尊重し、誠実かつ公正に職務を遂行し、高い倫理性と社会的良識に則って行動できる方（「立命館憲章」等については、立命館大学または学部・研究科のホームページをご確認下さい）
着任時期	2027年4月1日
応募資格	下記①から⑤までの条件をすべて満たし、上記の着任時期より勤務可能な方 ①本学での教育・研究に熱意を持ち、本学の教育研究の発展に寄与いただける方 ②募集分野に関わる博士の学位を取得されている方、もしくはそれと同等の学識・研究業績を有する方 ③大学での英語教育の経験があり、学際的な視野で教育研究に取り組める方。 ④総合心理学部の英語教育目標に照らした教育運営に参加し、総合心理学部「プロジェクト発信型英語プログラム」の理論・実践研究の趣旨（P.4～）を理解し貢献できる方。プロジェクト発信型英語プログラムに関してはウェブサイト http://www.pep-rg.jp を参照 ⑤大学における英語教育をはじめとした教学運営に貢献し、日本語で対応できる方
雇用契約期間	任期の定めなし（試用期間なし）
所属・勤務地	総合心理学部 大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市） 但し、衣笠キャンパス（京都府）、びわこ・くさつキャンパス（滋賀県）で開講される科目をご担当頂く場合があります

担当授業時間	通年平均1週5授業時間（基本的に、1授業時間は95分、1授業科目は95分×14回（週）+20分（VOD授業等）で構成されます） ※上記担当授業時間を超えて授業担当を命じることがあります
休憩	労働基準法の定めに応じた休憩を付与します
休日	土・日・祝日、夏期／年末・年始休日、その他大学が定める休日 但し、一部の土曜日・祝日が授業日・統一補講日その他の出勤日となる場合があります
給与等	(1) 月額本俸： （教授例）35歳 516,000円、40歳 596,000円、45歳 670,000円 （准教授例）35歳 516,000円、40歳 596,000円、45歳 632,000円 ※いずれも2025年度実績 (2) 賞与：年2回（6月・12月） (3) 手当：通勤手当、職務手当、超過時間手当 等
定年	教授 65歳、准教授 60歳（※准教授には継続雇用制度あり）
社会保険	雇用保険、労災保険、社会保険制度完備
募集者	学校法人立命館
その他	○本学は女性活躍推進法の趣旨に則り、女性の積極的応募を歓迎します ○本学はワークライフ・バランスに関する諸制度を整備しています <立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室ホームページ> https://www.ritsumeikai.ac.jp/research/rsupport/ ○本学は、各キャンパス内全面禁煙です
応募締切日	2026年5月21日（木）JST 23:59
提出書類	以下①はExcelにて、②～⑥はPDFにて提出してください ①履歴・業績書 ※所定様式 ※所定様式は以下の立命館ホームページよりダウンロードできます https://www.ritsumeikan-trust.jp/publicinfo/recruitment/detail-psy/ ②主要研究業績（著書または論文）3件以内 ③最終学位の証明書および修了・卒業証明書 ④本学における教育に対する抱負（日本語1,000字程度、書式自由） ⑤研究等の活動概要を記載した書類（以下2種類） ・プロジェクト発信型英語プログラムにおいて貢献したい内容（日本語1,500字程度、書式自由） ・現在までの研究と今後の研究計画の概要（日本語1,000字程度、書式自由） ⑥その他（任意） ・資格、実務経験、国内外の当該分野における広いネットワーク、海外留学、外国語運用能力など、特色ある能力や経験があれば、詳細を記載した書類（書式自由）を提出してください ※提出書類は返却いたしません ※応募にあたり本学が入手した情報は、採用選考および採用後の人事管理以外の目的では使用いたしません

選考方法	<p>①1次選考（書類審査） 1次選考通過者に対してのみ、6月4日（木）（予定）までに2次選考の詳細について、電子メールにて通知します</p> <p>②2次選考（面接、模擬講義） 実施日：6月中旬（予定）</p>
応募書類の提出先	<p>本学WEB 応募システムにアクセスし、必要事項を入力の上、応募書類のデータファイルをアップロードし、提出してください</p> <p>https://www.ritsumei.ac.jp/gakuji/recruitment/?col=14&cou=27&amcd=cp004_en&appt=20270401&datm=1&dats=2</p> <p>※WEB 申請の際は「学校法人立命館 Web 応募システム入力の手引き」を必ず参照の上、必要事項をご入力ください</p> <p>※インターネット通信の不調等による不達の場合の責任は負いかねます 持参・郵送・電子メールによる応募は受付いたしません</p>
問い合わせ先	<p>立命館大学総合心理学部事務室（担当：西、小倉）</p> <p>E-mail：sinri02@st.ritsumei.ac.jp</p> <p>※本件に関するお問い合わせは、原則として電子メールにてお願いいたします</p>

総合心理学部のプロジェクト発信型英語教育について**(1) 英語教育の目標**

総合心理学部における英語教育の目標は、英語でプロジェクトを遂行し、人間のこころと行動の理解に関して英語で自らの考えを表現し、将来、関連分野で国際的に活躍できる人材を養成すること、とする。

そのため、総合心理学部においては、情報発信型の英語教育を行っていく。これによって、単に英語のみならず、プロジェクト（投企）の精神を涵養し、学生の学ぶ力を活性化していくことも達成できると考える。

(2) 英語教育の概要

総合心理学部の英語教育は、「英語専修」とする。基礎科目の中の外国語科目として英語8単位（英語P1～4、英語S1～4、各1単位）を必修とし、また専門科目の中の総合心理学専門科目に特殊講義として、3回生以上の学生を対象として「専門英語（心理学）Ⅰ」（2単位）、「専門英語（心理学）Ⅱ」（2単位）を開講する。

(3) プログラムの構成

新学部の英語プログラムは、プロジェクト(Projects)とスキル・ワークショップ(Skill Workshops)の2本柱で構成する。学生は自分の関心事をテーマにプロジェクトを敢行し、その成果を英語で発表する。プロジェクトに必要な英語能力は、スキル・ワークショップで習得する。

新学部には、様々な英語学力者層が入学してくることも予測される。自己と他者の行動の理解、臨床的な問題など新入生が共通に抱く関心や目的意識は、プロジェクトで各自のテーマに位置づけ表現・発表する取り組みを進めつつ、プロジェクトでの発信に必要な基礎的な英語運用能力は、学力別にクラス編成したスキル・ワークショップで履修する。

1回生では、「英語P1」（1単位）、「英語S1・S2」（各1単位）を履修し、2回生では、「英語P2・P3」（各1単位）、「英語S3・S4」（各1単位）を履修し、3回生では、「英語P4」（1単位）を履修する。全て必修科目である（全8単位）。

3回生以上の学生向けには、学部共通専門科目に専門外国語として、「専門英語（心理学）Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を開講し、より専門的なプロジェクトを行いAcademic Englishスキルを学ぶ（選択科目）。具体的には、様々な心理学分野の、英語で書かれた学術論文を読みこなし、要点をまとめて分かりやすく発表し、その内容に関して批評や議論を行う。

4回生向けには、卒業研究の概要を英語で発表し、そのアブストラクトを英語で書く取り組みを実施することについて、検討を進める。

(4) プロジェクトとスキル・ワークショップ**①プロジェクト（英語P1～4）**

プロジェクトとは、学習者が自身の関心事を中心に学習を行い、その成果を英語で発信することまでを含む活動の総体である。1回生では、日常生活、クラブ活動、一般教育、専門分野（心理学）の授業などで関心を持つ事柄をテーマにプロジェクトを設定する。2、3回生では専門分野に関する事柄をテーマにプロジェクトを行う。

プロジェクトを通して、Research, Presentation, Debating, Negotiation などの Professional Skills を習得する。1 回生では Basic Professional Skills を、2 回生では Intermediate Professional Skills を、3 回生では、Advanced Professional Skills を習得する。

②スキル・ワークショップ（英語 S1～4）

English Skills (Listening, Speaking, Reading, Writing) と English Competence (Pronunciation, Vocabulary, Structure, Meaning) を学習し、プロジェクトで発信するために必要な英語運用能力をつける。学生が関心を持つテーマを中心に、Interactive な活動を行う。よって、Listening, Speaking, Reading, Writing 等を分けずに総合的に学習できるよう工夫する。4 つの Skills を Sound-focused course (= Listening + Speaking) と Letter-focused course (= Reading + Writing) に分け、1 回生では前者を中心とした、2 回生では後者を中心とした授業運営を行う。Sound-focused course では Listening や Speaking を中心とした構成としつつ、Reading/Writing の要素も入れるなどして、Interactive かつ Productive な活動を行う。また、発音、文法構造、語彙、表現などを Skills の活動に連動させ、機能的習得を促進する。

(5) 授業運営

①クラス編成・規模

英語 P1～4 のクラス規模は 1 クラス 23～25 名程度とし、習熟度別、学力別のクラス編成とはしない。

英語 S1～4 のクラス規模は 1 クラス 18～20 名程度とし、学力別クラス編成とする。

②成績評価

本プログラムの成果は、[1]英語でプロジェクトを行う能力の習得、[2]プロジェクトのコンテンツそのもの、[3]Professional Skills, English Skills, English Competence など英語の運用的能力と知識の習得、の 3 点である。

プロジェクト発信型の評価システムを導入し、学年レベルごとに上記で述べた成果を評価し測定する。プロジェクト（英語 P1～4）はレベルごとに、リサーチの内容、構成、言語、レトリカルな説得力、ICT 等の効果的なマルチ・メディアの使い方、プレゼンテーションの準備等の基準を明確にして評価する。スキル・ワークショップ（英語 S1～4）の評価は発信・生成能力の評価と受信・理解能力の双方を評価する。前者についてはインタビュー（interview）や作文（composition）等を通して内容、構成、言語、説得力等の基準をもとに評価する。後者については、GTEC Academic 4 技能テストを活用し読解力、聴解力、文法、表現の知識を評価する。

③デジタル・メディアの活用

プロジェクト、スキル・ワークショップとも、オンライン化を進めていく。プロジェクトでは、学生の課題を提出させる仕組みを整備するだけでなく、教材等のデジタルファイルのオンラインでの共有や、オンライン掲示板を利用した授業連絡や情報共有などを行う。スキル・ワークショップでも一部教材を電子化し、反転学習システムや自動学習システム（CALL 等）を整え、宿題や課題もオンライン上で提出することを可能にする。

④授業外活動の活性化

プロジェクト（英語 P1～4）では、授業内の活動の量に匹敵する授業外の活動を促進する。スキル・ワークショップでは、自動学習システムを導入して、授業外の英語学習を行えるように環境を整える。

⑤多様な学生への対応

英語意欲層・優秀者層のさらなるレベルアップをはかる。英語意欲層・優秀者層を対象とした「専門英語（心理学）Ⅰ」（2単位）、「専門英語（心理学）Ⅱ」（2単位）を開講する。

⑥総合心理学部英語担当者会議の設置

学部が英語教育に全責任を持ち、専門教育と英語教育の効果的な連携のしくみを構築することを趣旨として、学部長、学部執行部、英語教員、学部事務室担当職員等で構成する総合心理学部英語担当者会議を設置し、定期的を開催する。

⑦その他

クラス編成は、入学時に実施する GTEC Academic の成績をもとに行う。また、本学では2025年度より、95分×14回授業+20分の「+R 授業（VOD 授業）」で授業を実施しており、基本的に受講生は「+R 授業」を受講した上で第1回授業に臨むことにしている。「+R 授業」の内容としては、シラバスに基づいた授業のガイダンスを想定している。

以 上